

12月6日(日)実践・研究報告 発表者一覧
(地域課題解決全国フォーラムin庄内2015)

【セッション1】地域課題解決①

【会場】中研修室1 【司会】澤邊 みさ子

時間	発表者	所属	一般/学生	題名	共同発表者	概要
9:00	武田 真理子	東北公益文科大学	一般	多様な住民参画による地域コミュニティの地域課題解決の推進方法に関する調査研究～中間報告～	伊藤真知子、呉尚浩、小関久恵、澤邊みさ子、渡辺暁雄(東北公益文科大学)	本調査研究は、「多様な住民参画」という視点から、鶴岡市第一学区、鶴岡市加茂地区、酒田市八幡日向地区、酒田市飛島の4つの地域における課題解決のプロセスの記録作成、アンケート調査とその分析を行い、先進地域の実践事例の調査分析とあわせて、主体的な地域コミュニティづくりのための多様な住民参画の推進方法を明らかにすることを目的としており、その中間報告を行う。
9:20	佐藤 智志	鶴岡市第一学区コミュニティ振興会	一般	誰も孤立させない絆づくり	佐藤智志 神尾 實(第一学区コミュニティ振興会)、西川松一(第一学区社会福祉協議会)、鈴木淳士(第一学区町内会協議会)	学区内10団体、市、市社協、包括支援センターなどと安心安全の絆づくり推進会議を設置。東北公益文科大学の協力を得て、高齢者の生活課題の把握や、日頃の見守り・災害時の避難支援に活用する「支援マップ」を全24町内会で作成中。学区社協の救急安心カードの取り組みにから始まった絆づくりプロジェクトの活動を報告。
9:40	澤邊 みさ子	東北公益文科大学	一般	酒田市日向地区におけるこども防災キャンプの実践～地域と大学の共創による地域コミュニティの維持・発展のための人づくり～	石川正志(酒田市日向コミュニティ振興会、防災キャンプ実行委員会)	酒田市日向地区では、これまでさまざまな地域づくり活動を実施してきた。平成26年度には、東北公益文科大学も協力して、地域支え合い防災マップ作りを実施した。今年度は、子どもたちも地域づくりに巻き込みつつ、子どもの防災意識を高めるために地域と大学が企画段階から協力して防災キャンプを実施した。本発表では地域と大学それぞれから、防災キャンプの内容とその意義について報告を行う。
10:00	武田 真理子	東北公益文科大学	一般	住民主体の地域福祉推進の方法に関する調査研究 ～小地域における地域福祉活動計画策定プロセスを中心に～		少子高齢化と人口減少を背景に多様で複雑な福祉課題が生じている庄内地域における住民を主体とした地域福祉の推進方法を明らかにすることを目的として行った本調査研究の中から、鶴岡市、西宮市、逗子市における地域福祉活動計画の策定プロセスに関するヒアリング調査の結果に関する報告を行う。
10:20	秋葉 則子	庄内町つばきゼミナール	一般	お茶しませんか、女子会で		「おじいちゃんを見かけなかった？」と近所の友人から電話があり私は車で駅周辺を、もう一人の男性は家の近くを探し、おじいちゃんは無事家に帰りました。友人は有り難い思いから近所の助け合い、それには日ごろの交流が大切と感じ「女子会」ができました。若い方もどうぞ…。のネーミングです私達声かけ係りが案内をつくり、自治会全戸に配布し都合の良い方が参加し、アイデアをお互いに出し合います。難しい組織ではなく長く続けられる事が目標です。
10:40	斉藤 友香	東北公益文科大学大学院	一般	鶴岡市加茂地区の「若者」における地域活動に関する意識・行動について		本研究の目的は鶴岡市加茂地区でのまちづくりの事例研究を通じ、若者参加における課題抽出、有効的な仕掛け・合意形成モデルを明らかにするものである。同地域では多様なまちづくり活動が行われている中で、積極的に参加している住民と表に出てこない住民が存在する。表に出てこない、特に次世代を担う若者の意識・行動に関するアンケート調査を行なった。その結果から、今後のまちづくりへの若者参加の方策について考察する。

【セッション2】地域課題解決②

【会場】104教室 【司会】中原 浩子

時間	発表者	所属	一般/学生	題名	共同発表者	概要
9:00	佐藤 ひろこ		一般	歴史あるまちの姿を残すために 歴まち meeting		歴史的風致維持事業として鶴岡市で開催されたワークショップに参加したきっかけから、今なお現存する昭和の建物を知り、この良さをまちづくりに取り入れていくためにはまず、一般の人に知ってもらわなければ。という思いから、歴まちmeetingというイベントを計画し、実行するまでを発表します。
9:20	水野 幸雄	鶴岡信用金庫地域創生部	一般	信用金庫のネットワークを活かした観光振興について		1、活動の経緯 2、観光PR活動 3、地公体との連携 4、観光客への対応 （1）若手職員によるサポート （2）おもてなし・付加価値のサービスの提供 5、活動の強化 6、今後の取り組み
9:40	中原 浩子	東北公益文科大学	一般	学生の力で観光まちづくりを	和田梨里・池田絵美・千葉結香梨・甲斐菊乃他（酒田おもてなし隊）	JR酒田駅はじめ、酒田港にて観光客の送迎や観光案内、またイベント時の活動などを行うことで、「人」による観光のしなげを学生が中心となって行い、市民にまで広げている活動の発表。
10:00	中原 浩子	東北公益文科大学	一般	学生発信組織ペリカン企画の取り組み	山崎侑斗・佐藤七海・奥みちる・和田梨里 他（ペリカン企画）	情報発信が弱いということが東北の各地で挙げられるが、その課題を解決しようと大学内に学生発信組織「ペリカン企画」が設立され、1年山崎侑斗を社長として大学内外の活動取材し学内放送、YouTube発信している。いつかは会社化することを目標に活動する企画会社の取り組みを発表する。
10:20	中原 浩子	東北公益文科大学	一般	さかた女流地域づくり塾	中原浩子・池田理沙・伊與田明子 他（さかた女流地域づくり塾）	女性の農業振興を目的に、若手就農女性と異業種の若手女性がコラボし、首都圏への販売ネットワークづくり、新商品開発、デザイン開発などに取り組んでいる女性だけのチームによる活動を発表。
10:40	中原 浩子	東北公益文科大学	一般	自然保護と共存する観光～地域と創る新しい観光の形		これまで山岳観光は山頂を目指す登山としての需要であったが、体力、技術、気候という要因に左右され、観光客数も伸び悩んでいる。せつかくの美しい資源である鳥海山を有する庄内で、登頂を目指すのではなく美しい山を眺めながら里を歩き地域の人とも触れ合う里のトレイルを作る事に取り組む仕組み作り。

【セッション3】地域課題解決③

【会場】105教室 【司会】山本裕樹

時間	発表者	所属	一般/学生	題名	共同発表者	概要
9:00	阪野 正義	東北芸術工科大学 松村研究室	一般	コワーキングスペースが起すダイナミズム	濱田翔太郎(東北芸術工科大学大学院芸術工学研究科デザイン工学専攻地域デザイン領域 1年)	山形県内に初のコワーキングスペースができて約1年。その以前から東北芸術工科大学松村茂研究室コワーキングスペース研究会は地方の課題を解決するコワーキングスペースの姿を議論、研究してまいりました。世界の知の拠点であるアメリカ・ボストンや日本の都市部、他県地方のコワーキングスペースの視察と、当研究会で実施した実験コワーキングスペースの結果から、「山形モデル」の考察を行います。
9:20	松山 薫	東北公益文科大学	一般	地域資源としての潜在的価値が高い建造物の維持・活用に関する研究		本報告では、山形県遊佐町の「日輪講堂」を対象として、その維持活用の経緯と、地域資源としての潜在的価値について考察する。日輪講堂は、茨城県内原の満蒙開拓青少年義勇軍内原訓練所にあった日輪兵舎を原型とする昭和戦前期の建造物で、報告者の調査の限りでは、この種のもので現存しているのは全国にわずか4棟である。その1棟である遊佐の日輪講堂は、戦後もさまざまな用途に利用され、現在も石原莞爾ゆかりの場所として各地からの来訪者がある。この建造物がどのように70年以上存続してきたかについて、一次資料をもとに明らかにする。
9:40	山本 泰弘	山形県	一般	学生チームが主導した、産学官民連携「高性能自転車試乗会」プロジェクト		筑波大生を中心とする「3Ecafeプロジェクトチーム」は、つくば市の課題である「自転車のまちづくり」をテーマにしたタウンミーティングを産学官民各セクターのゲストを招いて開催した。そこから生まれた「上質な自転車に試乗するイベントを設け、自転車にこだわりを持つ善きユーザーを増やす」というアイデアを練り上げて市の政策会議に提案、賛同を得て、自転車流通企業の協力を取り付け実現させた。
10:00	石井 雅章	神田外語大学メディア教育センター	一般	大学教育を通じた休耕地活用プロジェクト		本報告では、地域課題のひとつである休耕地を大学の授業の一環として活用するプロジェクト実践について発表する。報告者のゼミでは、学生が地域の様々な主体と連携して大学周辺の休耕地を活用する「休耕地活用プロジェクト」を2008年から実施している。プロジェクトでは、休耕地活用という課題に加えて、健康づくりや地域ブランドの創出など、他の地域課題を組み合わせながら課題解決に取り組んでおり、その経緯及び成果を報告する。
10:20	皆川 治	東北公益文科大学	一般	庄内地域における小水力発電の導入促進について		庄内地域での小水力発電を更に推進するためには、農業用水利権に従属する発電に加え、発電用の水利権を取得し、通年で発電できる状況に近づけていくことが重要である。本研究では、水利権の実態、その使用手続き、新規取得の可能性等について、ヒアリング等により明らかにする。

【セッション4】人材育成①

【会場】208教室 【司会】伊藤 眞知子

時間	発表者	所属	一般/学生	題名	共同発表者	概要
9:00	植田 美由紀	東北公益文科大学大学院	学生	若者の職業価値観と影響について—山形県内の調査から—		次世代を担う若者が地域で定着して暮らしていくためには条件が必要であり、その一つに職業があげられる。本研究では、若者が職業選択の際に何らかの職業価値観やライフコースを決める判断基準を内包しているとの仮説をたて、その影響を受けたものとして、家族や相談相手がいることについて考察する。また、社会的方向づけや社会的ガイドに左右されず本人の主体性や自己選択により、進路の方向づけがどの程度存在するかを研究課程と共に報告する。
9:20	筒井 友美	東北公益文科大学	学生	山形県庄内地域における小学生を対象とした「公益を考える授業」の実践～東北公益文科大学Koeki Kids Projectの活動報告～	橋口櫻子、松本知、菊池寿樹、須藤洋祐(東北公益文科大学)	Koeki Kids Projectは、東北公益文科大学の学生が、日ごろ学んでいる公益学を小学生に伝えるという実践的な活動を行っている。本学演習科目「応用型プロジェクト演習」の受講生が中心となって取り組んでいるこの活動は、小学生に公益の視点から、自分たちの身の回り、学校・地域社会を見つめなおし、自覚的に考えてもらう機会を増やすことを目的としている。本報告では活動内容と活動の意義について発表する。
9:40	小関 久恵	東北公益文科大学	一般	“庄内の達人プロジェクト”における聞き書き実践報告	岡崎愛子、熊谷夏季、佐藤百恵	平成26年度より実施している東北公益文科大学COC事業「庄内地域カレッジ」における“庄内の達人プロジェクト”では、高校生や大学生が地域の「達人」へインタビューし、その方の語り口を大事にした作品としてまとめる「聞き書き」を実施している。本報告では、それらの実践報告を行いたい。
10:00	伊藤 眞知子	東北公益文科大学	一般	人材育成の方法としての「聞き書き」に関する領域横断的研究—「庄内の達人プロジェクト」の実践を通して—		本研究は、地域リーダー育成の方法として「聞き書き」に着目し、社会学、民俗学、歴史学、社会教育、ソーシャルワーク、介護福祉等からの領域横断的研究により、庄内地域独自の人材育成方法の開発・検証を目的とした。平成26年度「庄内の達人プロジェクト」において、高校生が「達人」への「聞き書き」実践を行い、大学生・若者が支援する過程について観察・分析を行い、人材育成の方法としての「聞き書き」の有効性を検証した。
10:20	伊藤 眞知子	東北公益文科大学	一般	産学官の連携による女性人材育成プログラムの開発に関する研究	坂本 静香(東北公益文科大学大学院)	本研究は、庄内地域の就労環境が、女性にとって働きやすく、能力を発揮できる魅力あるものとなるよう、地域の実情に合わせた産学官連携の女性人材育成プログラムを開発することを目的とする。プログラム開発にむけて、先進地(福井県)の訪問調査ならびに庄内地域の企業の経営者と働く女性を対象にアンケート調査を実施し、庄内モデルとなるような、産学官連携による新しい女性の人材育成事業の構築を図る。

【セッション5】人材育成②

【会場】209教室 【司会】神田 直弥

時間	発表者	所属	一般/学生	題名	共同発表者	概要
9:00	小出 秀雄	西南学院大学経済学部	一般	姪浜西南大学まちによる地域と学生の活性化	木下舜太郎、松下隆志、中島美奈(西南学院大学)	「姪浜西南大学まち」は、学生の社会力向上と地域の活性化を目的とした、今年度後期に始まった教育研究プロジェクトです。連携主体である姪浜商店会連合会も福岡市の助成金を獲得し、地域と大学との交流拠点「M'sコミュニティ」をオープンしました。この大学まちの取組でこれまでどのような成果があり、今後どのような課題を解決していくのかを、実行委員の学生がお話いたします。 https://www.facebook.com/meinoseinan/
9:20	吉村 充功	日本文理大学	一般	学修サイクルを意識した地域志向カリキュラムによる地域創生人材の育成 ～日本文理大学COC事業による“おおいた、つくりびと”プロジェクト～	吉村 充功, 高見 大介, 市田 秀樹, 池畑 義人, 鍋田 耕作(日本文理大学)	本学COC事業では、大分県の豊かなフィールドを活かし、地域との実践的協働活動による「豊かな心と専門的課題解決力を持つおおいた地域創生人材の育成」＝“おおいた、つくりびと”事業を推進している。本事業では地域での「体験交流活動」「課題解決に必要な知識修得」「関係者との協働による課題解決型学修」の学修サイクルを意識した教育カリキュラムへの全学再編を進めている。取組の現状と現時点での成果、課題を報告する。
9:40	丹野 浩平	東北公益文科大学	一般	エンディングプランを通じた市民意識の啓発	五十嵐来夢、佐々木友、本間香之子、本間志穂(東北公益文科大学)	私たち東北公益文科大学の学生チーム「やまこみゆ」は平成26年12月に山形県内外の複数の大学生より参加者をつのり「やまがた多職種連携学生ネットワーク」を発足し活動してきました。現在まで医療・介護に関する現状と他大学を交えたミーティングで出た意見をもとに鶴岡や新潟の健康フェアでエンディングプランを通じた市民啓発を行ってきました。今回のプレゼンではこれらの活動の報告を行います。
10:00	山下 匡将	名古屋学院大学現代社会学部	一般	熱田区孤立を生まない地域づくり事業の展開 -市営南熱田荘における「自治会インターンシップ」の取り組み-	坂井勇太、高木雅成、杉本岳斗、浅井優輝(名古屋学院大学)、勝見ゆり子(名古屋熱田区社会福祉協議会・CSW)、半田恵一(市営南熱田荘自治会・会長)	市営南熱田荘(名古屋市熱田区)は、高齢化率が約60%、2013年にはいわゆる「孤立死」が立て続けに6件発生しており、住民相互のつながりの形成が喫緊の課題となっている。本報告では、学生が住民に自治会活動の指導を受ける「自治会インターンシップ」の取り組みとその成果を示す。※本報告は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC事業)2013年度名古屋学院大学地域志向教育研究経費」の助成による研究成果の一部である。
10:20	荒木 洋樹	まちなか求人帳	一般	地域課題解決と人材育成の実効性を高めるProject Based Learning(PBL)手法の開発	神田直弥(東北公益文科大学)	文部科学省は平成20年に取りまとめた答申においてPBLに代表される体験的な活動の充実を提案し、また平成25年に地域を志向した教育・研究・社会貢献を支援する地(知)の拠点整備事業(COC)を開始した。それに伴い今後ますます地域と深く関わる地域連携PBLの必要性が高まると推察される。そこでCOC採択大学を対象に地域連携PBLの実施状況や抱える課題など実情を調査した後、諸課題の解決に寄与する手法の確立を図ったため、ここに報告する。

【セッション6】人材育成③

【会場】210教室 【司会】齊藤 徹史

時間	発表者	所属	一般/学生	題名	共同発表者	概要
9:00	和田 明子	東北公益文科大学	一般	人口減少時代の自治体職員研修の開発に関する研究	齊藤徹史、内藤悟(東北公益文科大学)	人口減少時代の自治体職員研修のあり方を次の3点から検討した結果を報告する(平成26年度地域課題基礎研究)。1)自治体職員研修制度の運用—山形を例として—、2)政策提言型政策形成研修の課題、3)政策法務研修のあり方
9:20	早川 公	宮崎大学みやだいCOC推進室	一般	地域課題解決に資する人材の育成と評価方法 —宮崎大学みやだいCOC「地域活性化・学生マイスター」制度を例として—		本発表は、COCが主旨とする「地域志向型人材」育成の一例として宮崎大学での取組を報告するものである。COC事業において、大学がどのような教育プログラムを設計し、かつ人材の質をいかに評価し保証するか、という点については各大学で試行錯誤されている。本発表では、みやだいCOCの人材育成プログラム「地域活性化・学生マイスター」制度の内容と学生の評価方法について説明し、意見交換をしたいと考えている。
9:40	米津 直希	稚内北星学園大学	一般	教職ゼミにおける地域学習支援の取り組み		稚内北星学園大学の教職ゼミでは、北海道宗谷管内の市町村と関わりながら、いくつかの地域において学習支援活動を行っている。この取り組みは、地域の学力向上に貢献しつつ、教職を目指す学生の指導力向上にもつながっている。学生はこの取り組みを通して、自らの指導力の向上と課題を見出し、また大学での学びと社会とのつながりを実感することとなる。本報告では、この取り組みと、学生の学びについて報告する。
10:00	山口 泰史	東北公益文科大学	一般	庄内地域における若者の地元定着の要因と意識構造に関する研究	松山 薫(東北公益文科大学) 江崎雄治(専修大学) 渋谷陽一(庄内総合支庁) 佐藤和徳(庄内総合支庁)	若者の地元定着に対する親世代の意識を把握するため、庄内地域で高校3年生の子どもを持つ親を対象にアンケート調査を行った。高校の協力を得て2,714通配布し、407通の回収を得た(回収率15.0%)。分析の結果、約66%の親が、子どもに「将来的には庄内地域に残ってほしい」と回答していた。ただし、子どもや親の社会的・経済的属性によって「残ってほしい」と思う割合に違いが見られた。
10:20	内藤 悟	東北公益文科大学	一般	庄内地域の水環境保全ガバナンスのあり方に関する研究		本研究は、庄内地域の重要な環境資源である鳥海山麓の湧水・地下水・河川からなる水環境、酒田市内を流下する新井田川を対象として、地域の水環境保全についてガバナンスのあり方を環境法学の視点から自治体職員・地域住民とともに協議、検討を行い、さらに同様の水環境を有する他県自治体の対応状況を比較・精査することにより、今後、庄内地域においても想定される問題点を明らかにし、よりよい水環境ガバナンスのあり方を地域に提供することを目的とする。